

## ちょっと、ってなんだろう？

□ ロナ禍で瞬く間に定着したリモート会議。挙手ボタンをクリックして発言することにもすっかり慣れた。「ちょっと、いいですか」。よくある最初のひと言。しかし、そこに潜むそれぞれの思いは千差万別だ。文字どおり「ちょっと」だけ言いたいことがある場合は、軽い感じで。緊張感のある会議で遠慮しつつ発言する場合は、心細そうな声で「ちょっと、いいですか」。それまでの意見に賛同できないときには、声を聞いただけで不服とわかる「ちょっと、いいですか」を聞くこととなる。ふと気づく。

### 「ちょっと」って、なんだろう？

「ちょっと、その靴いいじゃない」と言うのと、そのあとには、「すてきね、どこで買ったの？」と会話が弾みそうだ。しかし、「ちょっと、その靴で行くの？」となると、「もう少しましな靴で行きなさい」と親の声が聞こえそうだ。

「ちょっと、待って」は、ほんのわずかな時間待ってほしいときや、進んでいる出来事にストップをかけたいとき。懇願するような口調で「ちょっと、待ってよおー」と言うのと、「勘弁してくださいよおー」と同じようなニュアンスが込められることになる。

「ちょっと」は、日常的な口語である。かしまった場面では、「少々、お待ちください」であり、「多少、異なりますが」「少し、丈が短いです」「わずかですが」、色合いが違います」などと言う。大人としては、これらのことばをセンスよく使いこなしたいところだが、何せ、便利なのだ。「ちょっと」は。

「ちょっと、ショック」は、少しだけショックを受けた場合と、かなりショックを受けた場合のどちらにも言う。おどけたように言ってみたり、おおげさに言ってみたりする。照れ隠しや周りへの気遣いといった自分の気持ちを「ちょっと」に込めて表現するのだ。

話し始めの「ちょっと、思ったんだけど」は、「ちらりと頭をよぎったのだが」という意味だが、話の流れに水を差さないよう、ソフトに話を切り出す、そんな気配りも感じられる。

ややもすれば口癖になりがちな「ちょっと」。「ほんの少し」にとどまらず、いらだちや奥ゆかしさまでも表現する懐が深いことばなのだ。

ちょっと、たいしたことばではありませんか。  
兼清麻美(かねきよ あさみ)